

# 超速硬セメント ジェットセメントNEXT

## ジェットセメントNEXTの特長

1. 3時間で実用強度を発現  
約3時間で実用強度を発現します。
2. 長期にわたる安定した強度増進  
ポルトランドセメント同様に、長期間にわたって安定した強度増進が得られます。
3. 可使時間を調整可能  
凝結遅延剤「ジェットセッター」を予め混練水に溶かして使用する事により可使時間の調整が可能です。

## ジェットセメントNEXTの用途

- ▶ ジェットセメントNEXTは、各種緊急工事や補修工事に使用するモルタル専用超速硬セメントです。
- ▶ コンクリート用途として使用しないでください。



20kg/袋

荷姿は製造の都合等により予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

### 配合例

#### モルタル配合例 その① (1:1モルタル)

使用材料	ジェットセメントNEXT	細骨材	水	ジェットセッター
1袋配合 (約22ℓ)	20kg (1袋)	20kg	8kg	適宜
1m <sup>3</sup> 配合 (1000ℓ)	917kg (45.9袋)	917kg	367kg	適宜

#### モルタル配合例 その② (1:2モルタル)

使用材料	ジェットセメントNEXT	細骨材	水	ジェットセッター
1袋配合 (約33ℓ)	20kg (1袋)	40kg	10kg	適宜
1m <sup>3</sup> 配合 (1000ℓ)	606kg (30.3袋)	1212kg	303kg	適宜



凝結遅延剤

被膜養生剤

プライマー

ジェットセッター

スミエスシー

リフレトリート

#### モルタル配合例 その③ (1:3モルタル)

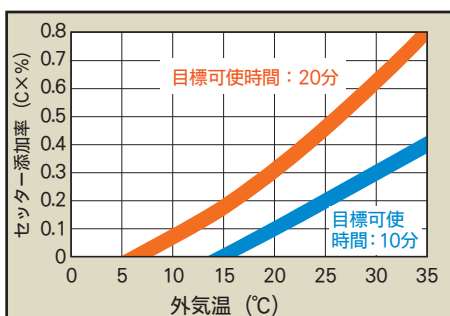
使用材料	ジェットセメントNEXT	細骨材	水	ジェットセッター
1袋配合 (約51ℓ)	20kg (1袋)	60kg	12kg	適宜
1m <sup>3</sup> 配合 (1000ℓ)	463kg (23.2袋)	1389kg	278kg	適宜

※必ずジェットセッターは所定量を混練水に予め溶かして使用ください。  
※上記は配合例になります。事前に試し練りを行い、性状を確認してください。

### ジェットセッターの添加率

右グラフは、目標可使時間とジェットセッター添加量の目安となります。

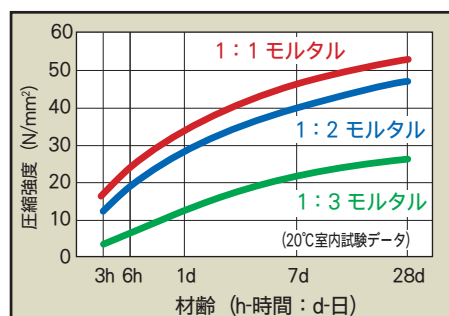
注意：  
可使時間を確保するためには、適宜モルタルを練り返して頂く必要があります。



### 圧縮強度の測定例

目標可使時間10分となるセッターを使用した場合の圧縮強度の測定例です。

可使時間確保のため、ジェットセッターを多めに添加する場合は、短時間強度に影響しますので、事前の試験練りを推奨します。



※弊社測定値の一例であり、品質保証値ではありません。

## 使用材料

セメント：ジェットセメントNEXT  
水：清浄なもの  
細骨材：良質のもの  
凝結遅延剤：ジェットセッター  
被膜養生剤：スミセエスシー（2～3倍希釈）  
プライマー：リフレトリート

## 準備

- モルタル用強制練りミキサ、ハンドミキサー
  - 計量容器、ハカリ、モルタル受皿
  - 内部振動式バイブレーター
  - スコップ、木ゴテ、金ゴテ
  - 養生剤・養生マット・養生シート等
- ※硬化が早いため道具を多めに用意してください。

## ハンドミキサによる混練方法



カゴ型攪拌羽根の例

カゴ型ハンドミキサー：日立工機株  
左官モルタル用 低速・高トルク型を推奨

混練容器に水を入れる  
(混練水にジェットセッターを所定量投入し溶解する)

ハンドミキサーで攪拌しながら  
ジェットセメントNEXTを投入

ハンドミキサーで攪拌しながら砂を投入

混練：2分（標準）

モルタル排出

## 施工手順

### 計量

- 各使用材料はあらかじめ1パッチ分ずつに計量しておいてください。
- ジェットセッターは、あらかじめ混練水によく溶かしておいてください。

### 打込み

- 旧コンクリートの下地処理は十分に行ってください。打ち込んだモルタルの水分が型枠・旧コンクリートなどに吸われることがないように打ち水、もしくはプライマー処理・プラスト処理等を行ってください。
- バイブレーター等を使用して十分に締め固めてください。
- ジェットセメントNEXTは硬化が速いので、作業が中断しないようにしてください。
- 多層打ちを避けて、できるだけ打ち継ぎ目を作らないようにしてください。
- 硬化しなかったモルタルに、水を加え練り返して使用しないでください。

### 表面仕上げ

- 表面仕上げは可使時間以内に行ってください。(可使時間はジェットセッターの添加率グラフ参照。)表面仕上げ終了後、必要に応じて被膜養生剤(スミセエスシー)を噴霧器等で、均一に散布してください。
- 表面仕上げを行う際に、モルタル表面に水をかけないでください。

### 養生 環境条件の違いによる養生方法の組合せ例

環境条件	10℃以上	5℃～10℃	5℃以下
被膜養生	被膜養生	被膜養生	被膜養生
保温養生	↓	保温養生	保温養生
シート養生	シート養生	シート養生	シート養生
加温養生	↓	↓	加温養生
後養生	後養生	後養生	後養生
供 用 可			

保温養生：保温マット等による養生 シート養生：不透水性シートによる養生  
加温養生：ジェットヒーター・電気毛布等による養生

- 養生は原則、施工後3時間以上行ってください。
- 養生中のモルタルには、散水等を行わないでください。
- 加温養生を行う際はモルタルに直接熱源や風を当てるとひび割れの原因となりますので、必ずシート養生を行ってから実施してください。

## 暑中対策

材料温度が高いと練り上がり温度が上がり、急激な硬化の原因となりますので以下の処置を行ってください。

- 材料は直射日光にあたらないように保管してください。
- 外気温が30℃を超え、練り上がり温度が35℃を超えると予想できる場合は、冷水等を使用し練り上がり温度が35℃を超えないようにしてください。
- 打設後の養生は直射日光、風等による乾燥がおこらないよう施工後すぐにシート養生等を行ってください。

## 寒中対策

- 氷雪のついている材料は、そのまま使用しないでください。
- 打ち継ぎ目のコンクリートが凍結している場合は、適当な方法でこれを溶かし、打ち継いでください。
- 材料を加温する場合は、水または骨材を加温するのが効果的です。
- 材料を加温した場合、モルタルの性状が異なる場合がありますのでご注意ください。
- 型枠の取り外し時は、打設個所の温度を急激に低下させないようにしてください。

## 使用上の注意

- 本製品は強いアルカリ性を呈し、目、鼻、皮膚等を刺激したり、粘膜に炎症を起こすことがあります。直接、皮膚に触れたり、目に入らないようにしてください。
- 作業時には、保護手袋、防塵マスク、防塵眼鏡等を必ず着用してください。
- 目に入った場合は、きれいな水で十分に洗眼し、直ちに専門医の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、きれいな水で十分に洗い流してください。
- セメントの容器(袋)は完全防水仕様ではありませんので、保管は屋内で行ってください。屋外に仮置きする場合は、パレット等でかさ上げし防水シートで覆ってください。開封したセメントは、なるべく早く使用してください。
- 他のセメントと混ぜないでください。

物性値の詳細については、当社試験成績表等をご参照ください。  
使用および取扱いの前に、当製品の安全データシート(SDS)をお読みください。  
本カタログの記載内容については、予告無しに変更する場合がありますので、予め御了承願います。

## 住友大阪セメント株式会社 建材事業部

〒105-8641 東京都港区東新橋1-9-2 (汐留住友ビル20F)  
Tel. 03-6370-2721 Fax 03-6370-2759

大阪 Tel.06-6342-7704 名古屋 Tel.052-566-3202  
札幌支店 Tel.011-241-3901 東北支店 Tel.022-225-5251  
北陸支店 Tel.076-223-1505 四国支店 Tel.087-851-6330  
広島支店 Tel.082-577-7645 福岡支店 Tel.092-481-0186

本製品に関するお問い合わせ・ご用命は